

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	在宅療養支援診療所のクリニックにおけるチーム編成と看護師を中心とした業務改善の取り組みに関する報告
演者名	○村上 智子、鈴木 朋子、西尾 けい子、伊賀 輝子、吉野 てるみ、足立 大樹
所属	医療法人コムニカ ホームケアクリニック横浜港南

I. 目的

ホームケアクリニック横浜港南(以下、当クリニック)は、訪問診療専門のクリニックである。看護師業務は、医師と同行し診療の補助をすることが主であるが、診療現場以外の業務として関係職種との連携や訪問前の準備、医療材料の物品管理などがある。そこで、当クリニックでは職員を 3 つのチームに編成し、看護師を中心とした業務改善に取り組んだのでその内容を紹介する。

II. 実践内容

チームは、医師と医療事務(以下、医事)から各 1 名、看護師は 6 名が 2 名ずつに分かれ、そこに院長と事務長、総務担当事務が加わり、物品管理、在宅・地域、施設という 3 つのチームを編成した。各チームは、担当者会議(以下、会議)を毎月 1 回開催し、会議後は議事録を作成し院内メールで情報の共有を図っている。各チームの看護師の主な役割は、①物品管理担当が処置物品や薬品類の注文および在庫管理と医療機器(エコー、心電図、A E D)の点検など、②施設担当が施設(特別養護老人ホーム、グループホーム、有料老人ホームなど)の入居者または入所者の訪問日程や家族との契約日の調整など、③在宅・地域担当が各病院の医療連携担当者からの新規依頼受付や在宅療養者の訪問日程調整などである。

III. 実践効果

チーム編成によって業務を組織化したことは、全体の仕事量が分散し効率的になったと同時に責任をもって活動することがやりがいにもつながった。会議では、少人数で話し合うため早期に課題が解決されやすい半面、会議開催までは課題がもちこされるという面もある。

IV. 考察

医師、医事、看護師がひとつのチームとして業務改善に取り組んだことは、単なる分業ではなく、各職種の専門性を生かした意見交換や具体的な課題解決方法の検討につながったと考える。今後はさらに、責任感ややりがいをもって各自が業務改善に取り組んでいきたい。